

分科会 13

精神障がいを持つ親のもとで育つ子どもへの支援とリカバリー

横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）
蔭山正子（東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野）
田代万由子（子どもの立場の方）
他、子ども立場の方

この分科会では、精神障がいを持つ親のもとで育った子どもたちの体験を通して、子どもたちの困難とリカバリーについて考えるとともに、子どもへの支援のあり方を考えることを目的としました。

6人の子どもの立場の方々が、分科会の企画から、演者や司会、グループワークのファシリテータを担当して運営されました。

●発表の内容

子どもの立場として、田代さんたち2人がご自身の体験を語りました。子ども時代の困難や辛さ、ヤングケアラーとして小さい頃から現在まで、親を介護している現状が話されました。一方で、子どもの親に対する愛情、困難な中でも生き抜いてきた、子どもの力を認識することができました。

蔭山氏は行政保健師という支援者の立場で、育児支援の現状と課題、長期的な視点での支援の重要性が話されました。横山は、子どもたちの困難、大人になっても続く生きづらさの存在、子どもたちのピア活動として始まった、子どもの立場の「家族による家族学習会」の内容と意義について説明をしました。

最後に、家族学習会の担当者を経験した子どもの方から、参加しての経験が話されました。同じ体験をした子ども同士で学び合い、語り合うことの大切さ、担当者として参加者が元気になる姿への喜びが語られました。家族学習会は子どもたちのリカバリーを促進するプログラムであると考えられました。

1. 子どもの体験談①（田代万由子）
2. 子どもの体験談②（子どもの立場）
3. 地域の母子保健システムの課題とあり方（蔭山正子）
4. 子どもの困難と「家族による家族学習会」の魅力（横山恵子）
5. 「家族による家族学習会」に参加して得られたこと③（子どもの立場）

●グループワーク・まとめ

後半は、子どもの立場の方と、子ども以外のご家族や当事者、支援者の方が分かれて、5～6人でグループを作って話し合いました。メディアも含めて多くの参加者がありました。

子どもの立場の方々から、子ども同士本音で話せて嬉しかった、同じ気持ちで頑張っているのだと思うと、私も頑張ろうと思えた、安心して話せる場が必要等の感想がありました。支援者からは、体験に心を打たれた、親の育児支援とともに、子どもにも関心を持って支援していく必要性を痛感した、地域全体の支援システムを作る必要があるとの意見がありました。

《横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）》